

ピアノ初学者のコード奏における運指の傾向 —コード予備練習（サブ教材）の提言—

松井典子*¹⁾，前田則子²⁾

1) 滋賀短期大学 幼児教育保育学科，2) 奈良教育大学 音楽教育講座

Chord Fingering Tendencies for Piano Beginners

—Proposals for Preliminary Chord Practice—

Noriko MATSUI¹⁾，Noriko MAEDA²⁾

1) Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

2) Department of Music Education, Nara University of Education

抄録

本稿は、保育者養成課程のピアノ授業において、学生のコード奏の技術習得度やコード奏の利便性の実感度を把握し、コード奏を主とする伴奏法が学生にとって有用であるかを明らかにする。この中で、初学者がコード技術を習得する際の運指の傾向を探る。コード奏の習得に時間を要した学生の特徴として、運指が定着せず、誤った運指を用いていたことが判明した。運指の誤りの原因を探るため、学生一人一人の演奏を撮影し、分析を行った。分析結果からコード奏における運指の問題点を明らかにし、運指定着のための予備練習課題を考案した。

キーワード：コード奏，運指，ピアノ初学者，養成校，予備練習

1. はじめに

筆者らは、保育・教職課程養成校の音楽の授業でピアノ実技を指導している。現在、養成校では、ピアノ初学者の学生数が増加傾向にある。指導者は、保育および教育の現場に出る前の限られた時間内でピアノ初学者に基礎的な技術の習得だけでなく、子どもたちの表現を生み出すピアノ伴奏，すなわち、子どもたちの表現活動を引き出し、支えることができるピアノ奏法の習得を念頭に置く必要がある。今般の保育および教職課程の法令改訂により、養成校においても新カリキュラムの導入が全国的に始まる。今後教科に関わる科目は、専門知識を養いつつ、領域や保育内容・表現の中で実践の場に活用することができる知識・技術を授業内容に取り入れる必要がある。しかし、ピアノ演奏に関す

*¹⁾ E-mail: n-matsui@sumire.ac.jp

る授業は減少する傾向にあり、十分な技術習得のために時間をかけられないのが現状である。そのため、養成校の指導者は、短期間に現場で即実践力となるピアノ指導法を再考する必要がある。

保育・教育現場のピアノ伴奏による実践活動に、弾き歌い（歌唱伴奏）やリズム活動の伴奏がある。歌唱伴奏方法として、指導書や子どもの歌唱に記載された通りに演奏する単音による簡易伴奏付けとコードによる簡易伴奏付けがある。前者は全ての左手伴奏を網羅し読譜する必要があるが、後者は、ある程度の知識と技術を習得すれば多くの楽曲への利便性が高い。保育現場で使用される楽曲は、主要三和音（I、IV、V、V₇）で殆どが構成されているため、近年、養成校で増加傾向にあるピアノ初学者は、コード奏の習得によって最小限の技術でレパートリーを増やすことができる。身体で繰り返し覚えることによって演奏に余裕が生まれ、子どもたちの様子を観察しながら演奏することが可能になる。またリズム活動においては、「元気よく弾んで歩く」や「ゆっくりと歩く」等の身体表現をともなう活動にコード奏のカデンツ1種類を用いて、リズム、テンポ、曲想、ピアノの音域等を変奏するだけで様々な演奏表現ができ、幅広く活用することができる。コード奏は音の重なりや和音の繋がりを聴取することにより、子どもたちだけでなくピアノ初学者の学生の感性をも育む。したがって、現場での実践において、両者の一体感を得ることにつながるであろう。

本稿では、2018年度の音楽Ⅲの授業終了時に実施した学生へのアンケート調査結果をもとに、コード奏による伴奏付けの有用性について考察する。さらに、おもにピアノ初学者で、コード奏の習得に時間を要した学生について運指の傾向を調査・分析した。その結果から、運指の問題点を明らかにし、コード奏の運指を定着させるための予備練習課題（サブ教材）を考案し、提示する。

2. コード奏による伴奏付けの有用性について

2.1 先行研究と問題の所在

養成校におけるコード奏に関する先行研究は多数ある。研究内容は、養成校の学生を対象にコード奏の有用性を実証するためのアンケート調査を含むもの^{1) 2)}やコード奏を用いた指導法についての研究である³⁾。筆者らは、これまで限られた授業時間内に現場で即実践できるコード奏による伴奏法について研究を進めてきた。また弾き歌いに関する研究⁴⁾では、技能習得に焦点を当てた指導に加え、子どもたちの歌を通した音楽表現を見守り、寄り添うことができる表現豊かな弾き歌いの習得を目指した指導法を述べた。ここでは、学生が上述のスキルを習得するために「コード奏による伴奏付け」を用いた弾き歌いの指導法を提示した。学生によるアンケート調査結果では、約8割の学生がコード奏の伴奏付けによって安定したピアノ伴奏ができるようになり、童謡弾き歌いのレパートリーを増やすことができたと回答した。2018年度は、コード奏の習熟度を確認する目的で、以下の自己点検・自己調査と自由記述によるアンケート調査を音楽Ⅲの授業で実施した。また、各学生のピアノレベル（初級・中級・上級）がコード奏の理解度や習熟度に影響があるのかを分析した。

2.2 調査内容

調査の対象学生は、2017年の前期に音楽Ⅰ、後期に音楽Ⅱを履修し、2018年前期に音楽Ⅲを履修した。現在本学では、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲの授業において1コマ90分の授業を前半・後半に分け(45分間ずつ)クラス授業と3人1組による個人レッスンを実施している。音楽Ⅰ、音楽Ⅱのクラス授業では、歌唱と基礎的な音楽理論を学び、ピアノ個人レッスンでは、楽譜の記載通りに弾き歌いの伴奏を行う。音楽Ⅲは、クラス授業とピアノ個人レッスンの両授業においてコード奏の弾き歌いの課題を習得する。コード奏の習得期間は、2018年4月から7月までの4か月間である。

○調査対象者 短期大学 幼児教育保育学科2回生および科目等履修生
筆者(松井)が担当した2クラス分

既述のとおり音楽Ⅲの授業は、1コマを前半クラス・後半クラスに分けて授業を実施しているため4つのグループに分類した。各グループの名称はそれぞれA, B, C, Dとする。

○履修登録者 70名(女子学生 67名 男子学生 3名)

○回答者 68名(女子学生 65名 男子学生 3名)

○実施日 2018年7月25日(水曜日)*授業最終回

○実施時間 4時限(14時40分~16時10分)

5時限(16時20分~17時50分)

○実施場所 滋賀短期大学3号館322教室

○調査項目 **自己点検・自己調査アンケート(質問紙)**

質問: 音楽Ⅲのコード奏による弾き歌いを理解することができたか

6段階評価(大変よくできた・良くできた・できた・ややできなかった・できなかった・まったくできなかった)の選択方式による自己点検・自己評価

自由記述によるアンケート(質問紙)

質問: 音楽Ⅲを終えての感想と今後の課題など気づいたことを書いてください

ピアノレベルの各級については、音楽Ⅰの初回の個人レッスン時に、指導者が学生のピアノ技能をチェックし、決定している。初級は、ピアノ初学者、バイエル20番程度を習得中の者、ピアノ歴はあるがブランクがある者とし、中級は、バイエル46番程度を習得している者、上級は、鍵盤楽器の経験者でバイエル80番程度を既に習得している者である。また、学生のピアノ進度によって音楽Ⅰから音楽Ⅱ、音楽Ⅱから音楽Ⅲに級を変更(例:初級から中級)する学生も存在する。

音楽Ⅲのクラス授業では、ハ長調(C Major)、ト長調(G Major)、ヘ長調(F Major)の主要三和音(I・IV・V・V₇)のコード奏を指導している。指のポジション移動をスムーズに行うため、

IV, V (V₇) は転回形で指導している。授業初回は、コードについて基礎的な楽典の知識を取り上げ、旋律のみの1段譜にコードネームが記載されたハ長調の童謡を使用し、コード奏の導入を行っている。第2回以降は、大譜表にコードネームが記載された楽譜でコード奏による弾き歌いの伴奏付けを行っている。弾き歌いの曲は、主要三和音以外のコードネームやマイナーのコードネームも含まれるが、その都度板書による理論的解説を行う。なお、弾き歌いに使用したテキスト⁵⁾には、運指は記載されていない。

2.3 倫理規定

本アンケート調査は、音楽Ⅲの授業内容の向上と学生の習熟度を確認するためのもので、目的以外に個人情報や調査結果のデータを使用しないことを事前に説明し、学生の上承を得たものである。

2.4 コード奏の理解度に関する調査結果

2.4.1 自己点検・自己評価による調査結果

「音楽Ⅲのコード奏による弾き歌いを理解することができたか」の問いに対する6段階評価の結果と各グループのピアノレベルをパーセンテージで示す(図1～図8)。

図1【Aグループ 自己点検・自己評価】

回答者 16名 欠席者 0名

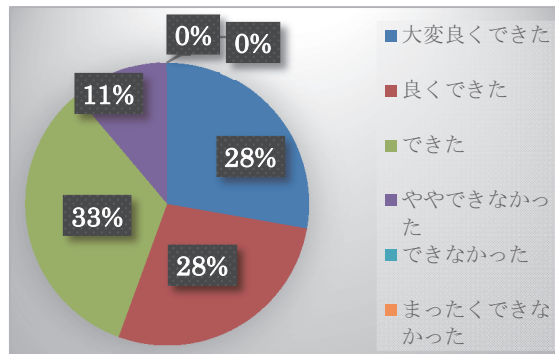


図2【Aグループ ピアノレベル】

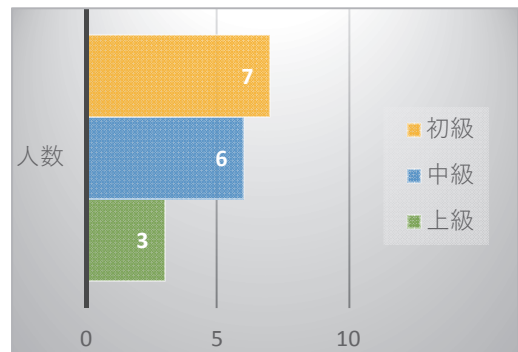


図3 【Bグループ 自己点検・自己評価】

回答者 15名 欠席者 2名

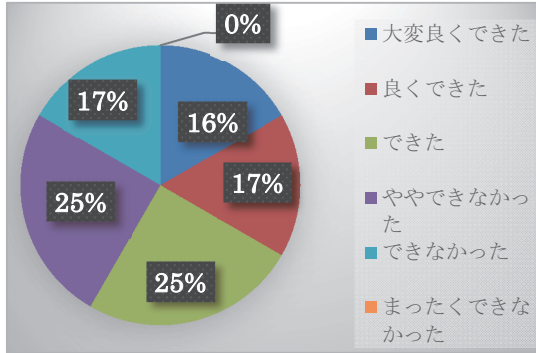


図4 【Bグループ ピアノレベル】

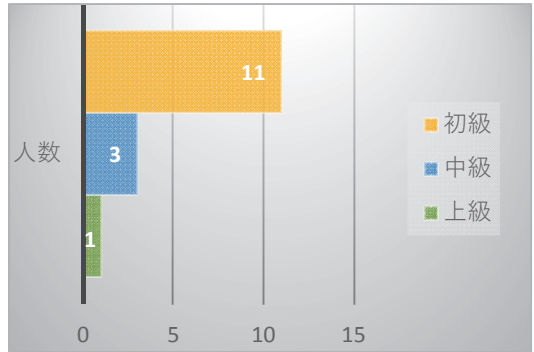


図5 【Cグループ 自己点検・自己評価】

回答者 18名 欠席者 0名

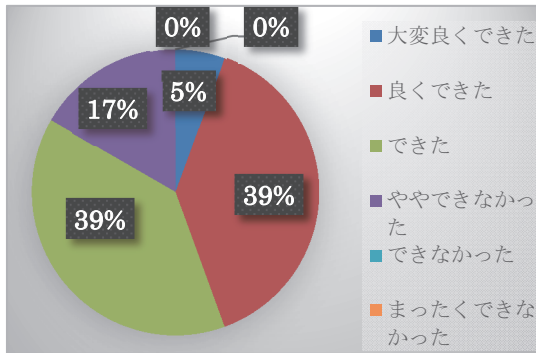


図6 【Cグループ ピアノレベル】

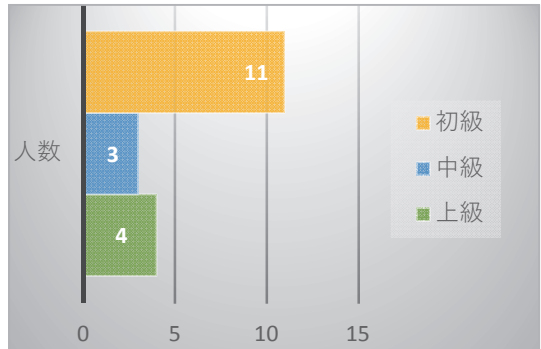
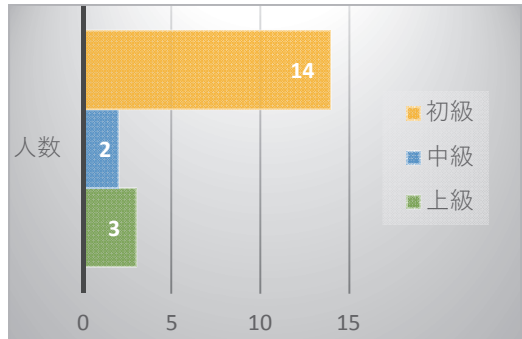
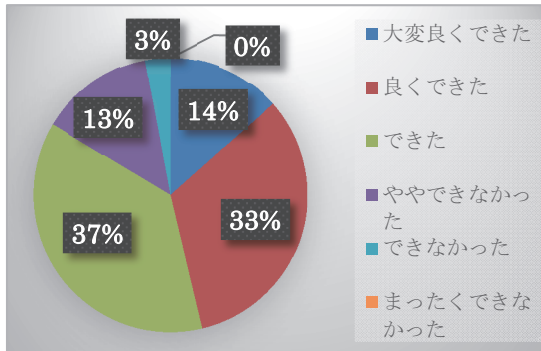


図7【Dグループ 自己点検・自己評価】

図8【Dグループ ピアノレベル】

回答者 19名 欠席者 0名



2.4.2 自由記述による調査結果

質問内容は、「音楽Ⅲの授業全体に対する感想や今後の課題」である。本稿では、回答者の記述の中で『コード』に関するものを抽出し、列挙する。

【Aグループ】

- ・今までは、コードや音符が全く分からなかったが、今回すごく色々なコードが身につくようになって色々な曲が弾き歌いできるので、これから活かしていきたいと思います。
- ・コードを学んだので、難しい曲でも右手が分かれば弾けた。しかし、コードの表を見ないとゴチャゴチャになるのでしっかりと記憶したい。
- ・授業で習ったコードを使って童謡など弾けるようになってよかったです。まだまだ弾きたい童謡があるのでたくさん練習していきたいと思います。
- ・コードがすぐわかるようにしっかりと覚えておきたい。
- ・弾き歌いをコードで弾くと楽になった気がしました。
- ・初めてコードをして、まだ全部のコードを覚えていないので全部のコードを覚え使えるようにしていきたいです。

【Bグループ】

- ・コードは覚えたらとても弾きやすくなって考えるのが少なくなりました。本当によかった！
- ・コードを習ってこれからの実習に活かす時が楽しみです。いっぱい弾き歌いできてとても役立ちましたし、応援されていると感じとても嬉しかったです。
- ・コードを理解する。
- ・まだまだ音符が読めなかったりコードがわからない。

- ・コードを覚えることによって、伴奏がとても楽しくなりました。
- ・コードが難しかった。

【Cグループ】

- ・コードを理解するのが難しかった。
- ・コードが難しかった。アレンジは自分なりにできた。
- ・**C.F.G**以外のコードがあまり理解できていないのでしっかり復習する。
- ・コードがほとんどわからなかった。覚えなければならず、歌詞とコードを覚えることがとても負担になった。音符で弾くほうが楽だと感じた。苦手意識を持ったままだったので、ほとんど習得できなかった。
- ・コードを覚えることが難しかった。
- ・音楽Ⅲの授業を終えてコードを使いこなせるとどのような曲でも簡単になると思いました。しかし、調ごとにコードは変わるため、どの調でも対応できるようにしっかりともう一度勉強し、覚えるのが私の今後の課題です。
- ・コードを教えてもらえたので保育現場に出たときに楽をして演奏できると思った。子どもを見ながら歌うことも必要になっていくので余裕があれば覚えていきたい。
- ・コードで弾き歌いは弾くようになり、前と比べて弾きやすくなりました。今後の課題は、コードをしっかりと理解することです。
- ・コードを応用したものは少し難しく感じました。例外のコードなど探して覚えるようにしたいです。

【Dグループ】

- ・自分でコードを考えるのが難しかった。
- ・コードを習得することができたので弾き歌いが弾きやすくなった。
- ・今までは、コードを意識して弾いたことがなかったのでコードの使い方を知りませんでした。しかし、授業で習って、コードを使うと簡単にしたり、アレンジしたりすることができることが分かったので、しっかりと覚えて活用できるようにしていきたいと思います。
- ・音Ⅲで初めてコードを練習して弾きやすいなと思いました。
- ・授業を終えて、コードが分かったことで弾ける曲が多くなりました。
- ・コードがあると、とても弾きやすいことがわかった。
- ・コードを覚えて自分なりにアレンジをできるようになるのが今後の課題だと思った。
- ・コードを覚えて自分なりにアレンジしたり出来たので実習先で活かせると思いました。
- ・指番号やコードを1人でも完璧にできるようになることが必要。

2.5 調査結果の考察

自己点検・自己調査における調査結果は、A グループ以外は、6割以上の学生が初級コースのピアノレベルであったが、コード奏が「まったくできなかった」と回答したグループはおらず、どのグループも「できた」と回答した学生が半数以上であった。グループ毎のピアノレベルとコード奏の習熟度に関しては、A グループは初級者より中級者、上級者の総数が上回っているため「できなかった」と回答した学生がいなかった。また、Cグループも初級者と中級・上級者の総数の差があまりなく「できなかった」と回答した学生はいなかった。このように、グループのピアノレベルとコード奏の習熟度も関係していることが調査結果から判明した。コード奏全般の理解に関しては、おおむね良好であったと分析できる。

自由記述のアンケート調査結果では、コード奏を経験したばかりの実直な感想が記されていた。コードの有用性を理解はするものの、記載された楽譜どおりに演奏することに慣れている学生やコードネームの理論的な理解に難しさを感じる学生もいた。例えば、ハ長調のコードネーム **C**<ドミソ>とト長調のコードネーム **C**<ソドミ>は、同じコードネームであり構成音も同じであるが、音の配置が異なることに対し、混乱する学生も少なくない。今後は、音楽理論的なアプローチ以外で、保育者養成課程の学生に分かりやすく知識と技術が結びつく指導方法を検討していかなければならない。他の自由記述のアンケートでは、コード奏による伴奏付けを保育実践の観点で回答した学生もいる。コード奏の習得によって最小限の技術でレパートリーを増やすことができることや、指の感覚をはじめ、身体全体でコードを繰り返すことにより、演奏に余裕が生まれ、現場での実践において子どもたちの様子を観察しながら演奏することが可能になることなどコード奏の利便性を学生が実感し、今後への期待や楽しさを感じ始めていることを読み取ることができる。

以上のようにコード奏の有用性は明らかになった。しかし、コード奏を導入した際に、おもにピアノ初学者で習得に時間を要した学生がいた。その特徴として運指に関わる問題が挙げられる。

次項では、コード奏時の運指に着目した調査および調査結果を述べる。

3. コード奏習得の実践調査

3.1 問題の所在と先行研究

ピアノ初学者がコード奏を習得する際、運指について特徴的な傾向が見られる。筆者が2018年度の音楽Ⅲを担当した約半数の学生は当初、ハ長調の楽曲で、コードネーム **C**<ドミソ>からコードネーム **F**<ドファラ>（以下コードネームの文言を省略する）のコードを同じ運指の5（小指）・3（中指）・1（親指）で弾いていた（以下運指を数字で示す）。本来 **F** のコードを弾く際は、5・2・1の運指を使用するが、**C** と同様の運指にするため指のポジション移動に時間を要する学生やミスタッチが目立つ学生がいた。特にピアノ初学者の学生にこの傾向が多く見られた。コード奏による伴奏付けの運

指にかかわる先行研究には、メロディーパートを担う右手運指に関わる研究^{6) 7)}や保育者養成校のピアノ初心者を対象とした運指法を出発とする指導法に関する研究⁸⁾がある。本研究と同様のコード奏を担う左手の運指の問題点に関しては、本間・松永⁹⁾の研究があるが、コード奏における左手運指に関するその問題点を克服するための具体的な練習方法や練習課題については述べられていない。

本調査は、コード奏時の運指の問題に着眼点を置き、コード奏の習熟度を運指の観点から調査・分析する。分析結果から、コード奏の運指定着のための予備練習課題を提示する。

3.2 調査内容および方法

本調査は、学生のコード奏の習熟度を運指の観点から分析するため、動画撮影を行う。動画撮影後、筆者が口頭で「コード奏は便利であったか」を問い、学生が挙手によって回答する調査を実施した。

- 調査対象者 滋賀短期大学 幼児教育保育学科 2 回生および科目等履修生
筆者（松井）が担当した 2 クラス分
2.2 の調査内容と同様、4 グループ（A, B, C, D）に分ける
- 履修登録者 70 名（女子学生 67 名 男子学生 3 名）
- 調査対象数 69 名（女子学生 66 名 男子学生 3 名）
- 実施日 2018 年 7 月 4 日（水曜日）＊第 12 回〈全 15 回〉
- 実施時間 4 時限（14 時 40 分～16 時 10 分）
5 時限（16 時 20 分～17 時 50 分）
- 実施場所 滋賀短期大学 3 号館 322 教室
- 使用楽器 ゼンオン オルガン EK-350 鍵盤：61 鍵（C2～C7）／48 音ポリフォニック
- 調査方法 筆者ら（松井, 前田）がピアノの両サイドに立ち、学生の手元をそれぞれの Ipad Air で動画撮影
一人ずつ演奏してもらい撮影を行う（ピアノ伴奏のみ）
- 課題曲 むすんでひらいて：ハ長調 一段譜（弾き歌いテキストより） 楽譜 1
- 課題曲提示日 2018 年 6 月 27 日（水曜日）の授業時に提示
コードネームを見て、コードによる伴奏付けを宿題とした。
課題曲に関しては、運指に着目するため、**C** から **F** の接続があり保育現場で弾き歌いの頻度が多い「むすんでひらいて」を選曲した。

楽譜 1 課題曲

むすんでひらいて

詞：不詳
曲：J. J. ルソー

て C む す ん で ひ ら い て
て C て を つ て む す ん で Fine
ま C た ひ らい て て を う つ て
そ C の て を う え に D.C.

3.3 倫理規定

調査実施に際しては、滋賀短期大学の研究倫理審査申請書を提出し、同委員会で承認を得た。また、調査開始前に、口頭および説明書を使用して研究目的や方法、個人情報の保護、データ管理方法および用途、研究への参加は自由であることを十分に説明し、学生に了承を得た上で実施した。

3.4 コード奏の実践調査結果

動画撮影による調査結果では、**C** から **F** のコード奏の運指は、おおむね守られていた。これについては、音楽Ⅲの授業開始当初から、運指が定まらず、コード奏に時間を要する学生が約半数見受けられたため、第2回以降、正しい運指について徹底した指導を行った結果であると考えられる。しかし、1名の学生は、**C** と **F** が同じ運指であり、コードネームが変わるごとに次のコードへの指の準備に時間を要していた。また13名の学生は、運指は守られていたが、**C** から **F** への接続に時間がかかっていたり、ミスタッチをするなど、安定した演奏ではなかった。

口頭による問い「コード奏は便利であったか」に挙手で回答を求めた結果は表1のとおりである。

表1 口頭による問い「コード奏は便利であったか」

	挙手者	出席者
A グループ	15名	16名
B グループ	12名	17名
C グループ	12名	17名
D グループ	15名	19名

3.5 コード奏の実践調査結果の考察

動画撮影による調査結果では、**C**から**F**のコード接続時に完全に運指を誤っている学生は1名のみで、時間を要した13名の学生は、運指の誤りはなかったが、もともと両手でピアノ演奏することに苦手意識を持つピアノ初学者であった。大多数の学生が運指を守り、コード奏の習得度に良好な結果を得られた要因は次のとおりである。音楽Ⅲの初回授業では、各グループの約半数の学生が**C**と**F**のコードネームを同じ運指で弾き、ミスタッチやスムーズな演奏にならないという問題点がでた。そこで、第2回から最終回に至るまで授業開始に振り返りとして主要三和音にコードネームとそれぞれの運指を板書し、コードネームと運指を結び付けることの重要性を示し、口頭でも注意するなど、学生たちに正しい運指で演奏する指導を徹底した。毎回の授業で繰り返し学生に正しい運指で演奏することを指導した結果である。

「コード奏は便利であるか」の問いでは、ほとんどの学生が便利であると回答した。挙手しなかった学生は、ピアノ初学者も含まれるが、ピアノ上級者も含まれていた。これは、2.5の調査結果の考察で述べたように、ある程度のピアノレベルにあり、楽譜の記載通りに演奏することに慣れている学生は、コード奏の習得に対してやや消極的な態度が授業で見られた。今回の調査結果の運指の誤った学生1名に対して、**C**から**F**のコード奏時、運指が定着しなかった要因を分析し、正しい運指を定着させるために、音楽Ⅱ・音楽Ⅲのピアノ保留者の授業において継続してコード奏習得のための個人指導を行う。

4. 運指定着のための予備練習課題の開発

4.1 運指が定着しない理由

ハ長調の**C**から**F**のコード奏において運指を誤る原因の1つに、5指の指の独立と鍵盤上の指のポジションが確立されていないことが考えられる。ドレミファソの各鍵盤上に5指を配置し、独立して動くという意識がないまま、コードを1つのまとまりとして手全体で振り下ろしてしまうのである。**C**から**F**のコード奏の接続で重要な点は、**C**のコード奏で弾かないファ（運指：2）の鍵盤上の準備と親指を1つ隣のラの鍵盤に移すための準備や、第1・第2指間を拡げる意識づけができていくのである。したがって、基本的な指のポジションが正しくなければ、**F**のコード奏は誤った運指によるミスタッチ、もしくはコードが変わるごとに演奏に時間を要することになる。

一般的に、幼年期のピアノ初学者への指導では、まず鍵盤上で5指のポジションを定着させ打鍵することに時間を費やす。この時に5指の独立も同時に確立することができる。しかし、養成校でのピアノ初学者へのピアノ指導では、学生に短期間に基礎的なピアノ技術を網羅的に習得させる必要があり、5指の独立と鍵盤上のポジションの定着のために十分に時間をかけることができない現状がある。3つの音を同時に打鍵するコード奏は、鍵盤を押し下げる圧力をかけた指と鍵盤上にリラックスした

状態で置かれた指を手全体で意識し、バランスを保ちながら演奏するという、初学者にとっては難しい演奏技術をとまなう。指の独立が確立していない手では、特に弾かない指を鍵盤上に置くという動作を認識することができず、結果、運指が定着しない原因となっている。

4.2 予備練習課題の開発

前述の問題点を踏まえ、コード奏の予備練習として5指の独立を取り入れた練習課題を考案した(楽譜2)。この予備練習課題は、まず5指の独立と5指の鍵盤上のポジションを定着させ(①)、段階的に**C**から**F**のコード奏を分散し、**C**コード内の<ミ・ソ>と**F**コード内の<ファ・ラ>を取り出して集中的に練習できるように作成した(②)。また、この予備練習課題は、**C**から**F**の接続を含めて練習することができる(③)。分散によって指の独立が確認された後、**C**コード内の<ミ・ソ>と**F**コード内の<ファ・ラ>を重音にして2音を同時に弾き、指を定着させる(④、⑤)。同様の方法で次は、**C**コード内の<ド・ミ>と**F**コード内の<ド・ファ>を同様に分散させ(⑥)、重音にする(⑦、⑧)。

Uszlerらは、「成人ピアノ初学者のためのピアノ教授法」¹⁰⁾で、効果的な課題の在り方について「単に習慣的な練習ではなく、身体が覚えることに重きを置き、集中力が保てる短くて繰り返し練習できる課題」と述べている。今回筆者らが開発した課題は、初学者がコード奏の運指技術を、正確に、効率良く、身体的に習得するための予備練習課題である。

5. まとめ

本稿では、保育者養成校における弾き歌いの伴奏付けとしてコード奏が有用であることを学生のアンケート調査をもとに分析し述べた。また、コード奏の技術習得の際、学生の運指の傾向を見る中で、問題点を明らかにし、運指定着のための予備練習課題を考案した。

前項のコード奏の予備練習課題は、調査で運指が定着しなかった1名の学生に提示し、現在レッスンを行っている。課題を提示した一週間後にハ長調の**C**から**F**の接続がある弾き歌いを行ったところ、運指も問題なくスムーズな指のポジション移動ができていた。対象学生は、一週間に3回、毎回1時間程度ピアノを練習し、最初に予備練習課題を一通り練習した後に弾き歌い曲を練習したと回答した。短時間の練習で効果が表れたことが判明したが、調査対象が少ないため実証結果とまでは言えない。来年度の音楽Ⅲの授業でコード奏を紹介する際に、今回提示した予備練習課題を取り入れ実証結果を報告することにする。今後も、ピアノ初学者が保育・教育現場での実践において有効な演奏技術を短期間で習得できるよう、具体的な指導法および予備練習課題を提示していきたい。

文献

- 1) 木下和彦(2015), 子どものうたの弾き歌い指導におけるコード伴奏の有用性—幼稚園教員養成校の教員及び学生を対象とした質問紙調査を通して—, 全国大学音楽教育学会研究紀要, 第26巻, p73-p82
- 2) 久保田眞子, 古庵晶子(2013), 保育者養成校におけるピアノ教則本のあり方について—コード奏習得を中心とした場合—, 白鳳女子短期大学紀要, 第8巻, p59-p75
- 3) 股木裕美子(2014), 保育者養成校におけるコード奏法活用に関する一考察, 千葉敬愛短期大学紀要, 第36巻, p89-p101
- 4) 松井典子(2018), 養成校における子どもたちのための表現豊かな弾き歌いの指導法について—演奏技能とコミュニケーションスキルの修得の観点から—, 滋賀短期大学研究紀要, 第43号, p143-p154
- 5) 柚木たまみ他(2015), 幼児教育・保育のうた 99曲マスター, 監修 柚木たまみ, 三学出版有限会社, 滋賀
- 6) 笹森誠(2015), ピアノ初心者のための運指法に関する考察, 青森明の星短期大学研究紀要, 第41号, p1-p18
- 7) 村木洋子(2013), 歌唱共通教材(小学音楽)旋律の運指について—ピアノ入門者のための—, 山梨県立大学人間福祉学部紀要, 第8号, p49-p56
- 8) 三宅義和, 岩口摂子(1997), 保育科学生へのピアノ指導法の基礎研究(1)—運指法を出発点とする指導の可能性①—, 日本保育学会大会研究論文集, 第50巻, p562-p563
- 9) 本間晶子, 松永洋介(2017), 初心者ピアノ指導における左手運指の問題について, 岐阜大学教育学部編 第66号(1), p51-p58
- 10) Uszler Marianne, Stewart Gordon and Scott McBride Smith (2000), The well-tempered keyboard teacher, 2nd ed., Belmont CA:Wadsworth/Cemgage Learning1, p60-p62